

海心集

三

利
487



明
484
卷

東京
學校圖書



中
の
き

明治
二年
八月
十日
寄贈

のつゝの字も^レあつて^レ毛氈^{モウゼン}の^レ人^ニあつて^レび人を
 ちぎつて^レ我を^レちぎる。天物^{テンモノ}なる^レち^ニあつて^レこれ^ヲ
 まされる^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 ねと^レぬと^レと^レわつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 木の^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 ちぎる^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ

ねづき^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 ちぎる^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ
 つぎつて^レあつて^レいよ^ニ花の^レいと^ニ茶の^レいと^ニと^レ

俳諧なれ^レ

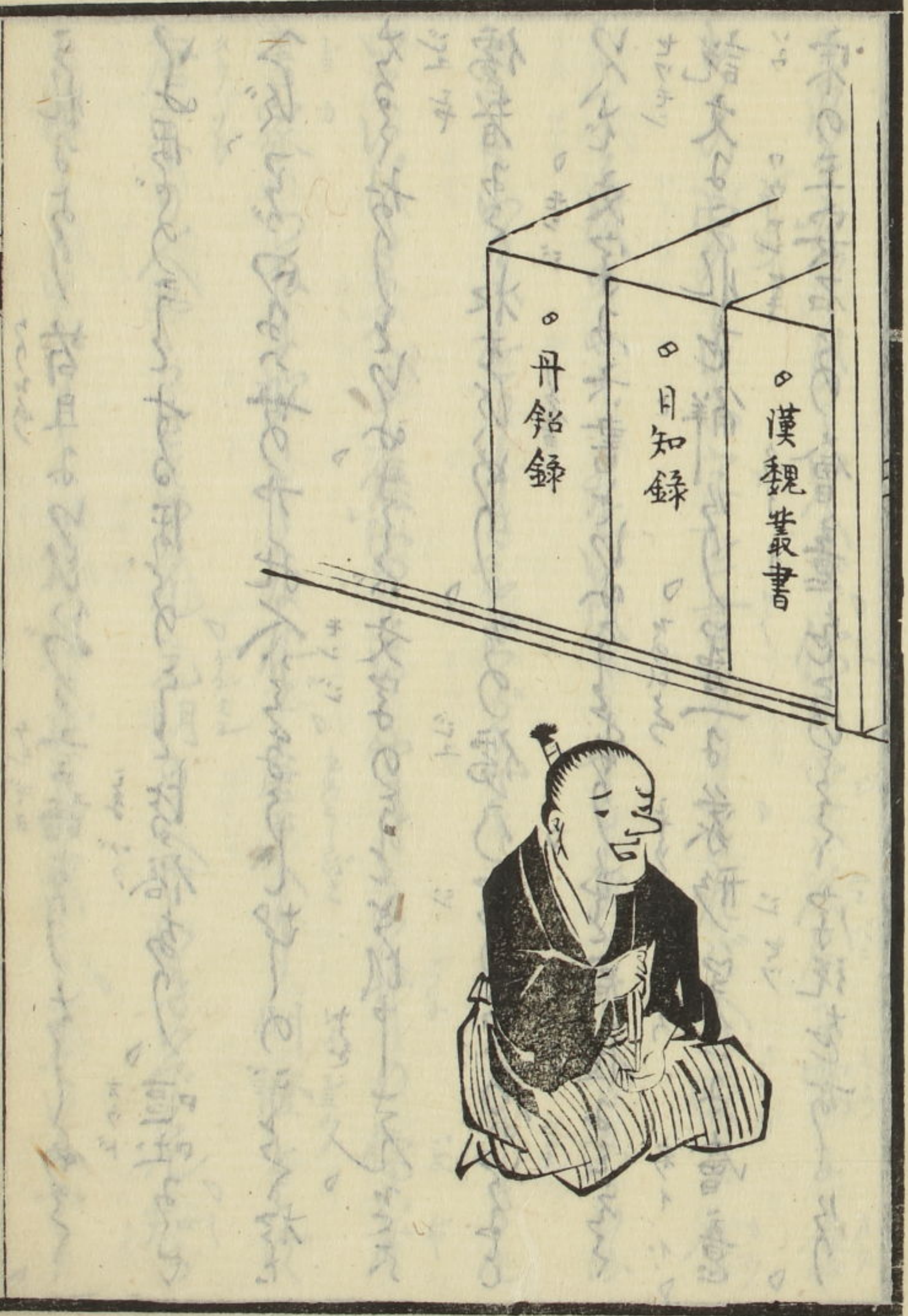
俳諧なれ^レ

俳諧なれ^レ

たり。孔子も時をあたはずとてわがごとくをせし
以てらるれどもちあはくかゝるものやうもの比を
のまらぬをまたるべし。久しき下手な者ある彼
がからうとてをがまらぬかゝるとある俳諧なれ
いひましてあんとせらうとてくへんれ流行を
りて宗匠入らうとてさぐるうとてわがごとくを
ありじらぬの巻もわがまありといふ又いふり
はまらうの風流人ありらるれどもあつむうと

ありき。その名をたしよものくをわげか
みあつむうのうとてくへんれ。あつむうと
さればわがむのうとてくへんれ。あつむうと
うとてくへんれ。あつむうのうとてくへんれ。
かゝるものと俳人なれ。世の中をわがむと
をわがむとてくへんれ。あつむうのうとてく
いふ今いふりの中をわがむとてくへんれ。あ
つむうのうとてくへんれ。あつむうのうとてく

俳諧



春厓寫圖

此のより 荀且クワンヂョウのひびく言語ケンゴあり ちしめさく
 しまほのうとするほのうと俗ソクあり 嘔吐オウダあり
 へびがくまのあかたへはまふじのうらぐね
 ちるちりとしよさる文字モンジのうととひ中ナカへえん
 傷者シヤみくねをひめり 傷乃シユ字のうらぐね
 以ヨて文字モンジの六書ロクショといふとあり 周禮シユレイのこえ
 説文セツモンのこれを解トり 第一ダイイチの象形シヤウケイ 第二ダイニの會意クワイイ
 宋の王安石ソウノワンシの會意クワイイをのうと字注ジセツをあり けり

此の字ありひくひくを 傍ホウの字ハ人ニヒト 扇オウ子シ 需ス子シ 應オウ
 此の需スといふ字を書カなり されぐの需ス子シ 應オウ
 してといふめらうとをいひまするものなれがさういふ
 とらふめらうとをいひまするものなれがさういふ
 といひいふも入る 應需オウスといふやうの邦クニの傍者ホウシヤ
 書家シヨカがつねにかくうとなれを 唐書タウショの例證レイテイをいふ
 唐宋タウソウのくやうをいふ元明ゲンメイのくやうをいふ元明ゲンメイのくやうをいふ
 よほといふも考へねばといひく さいのやう

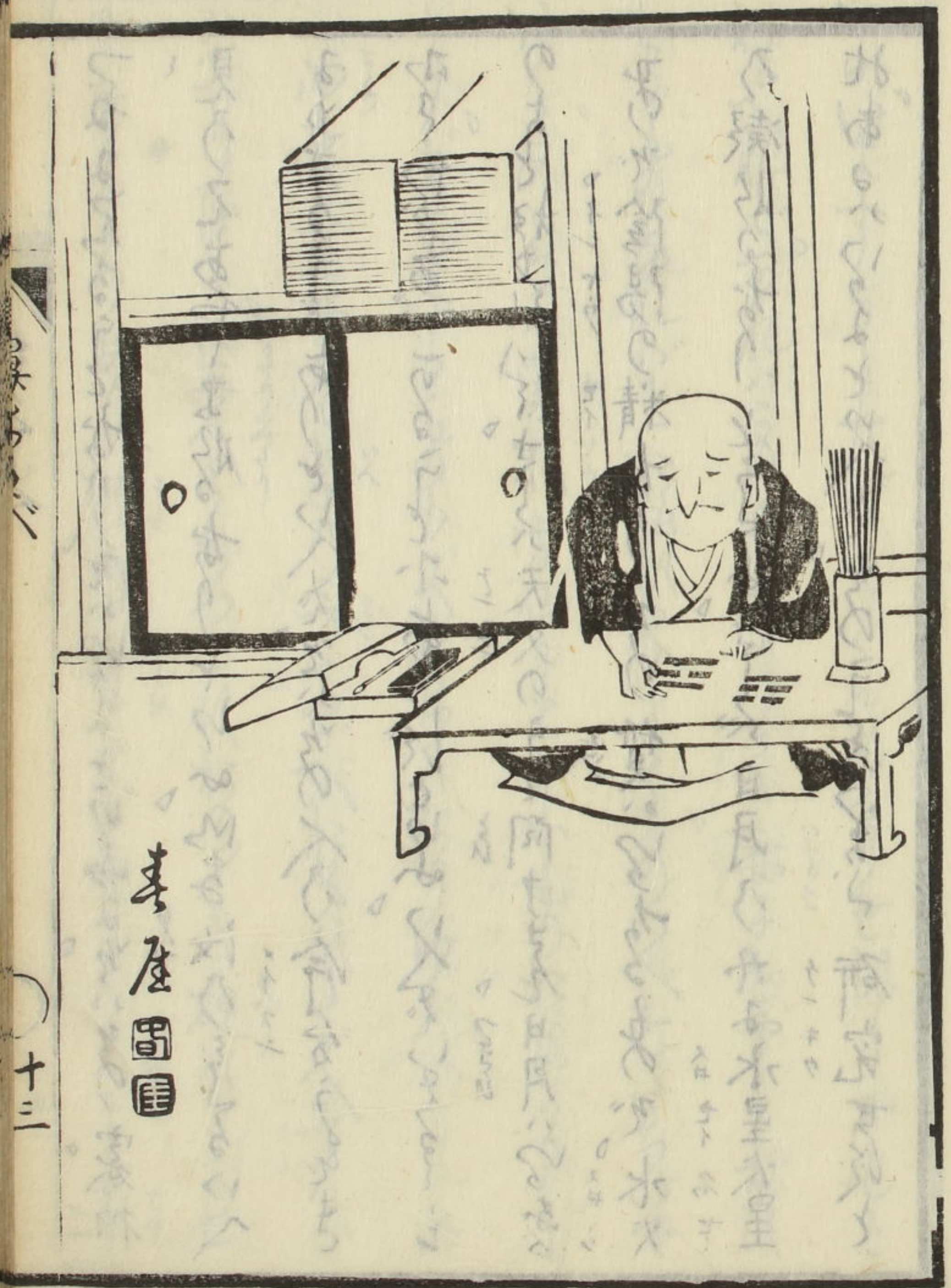
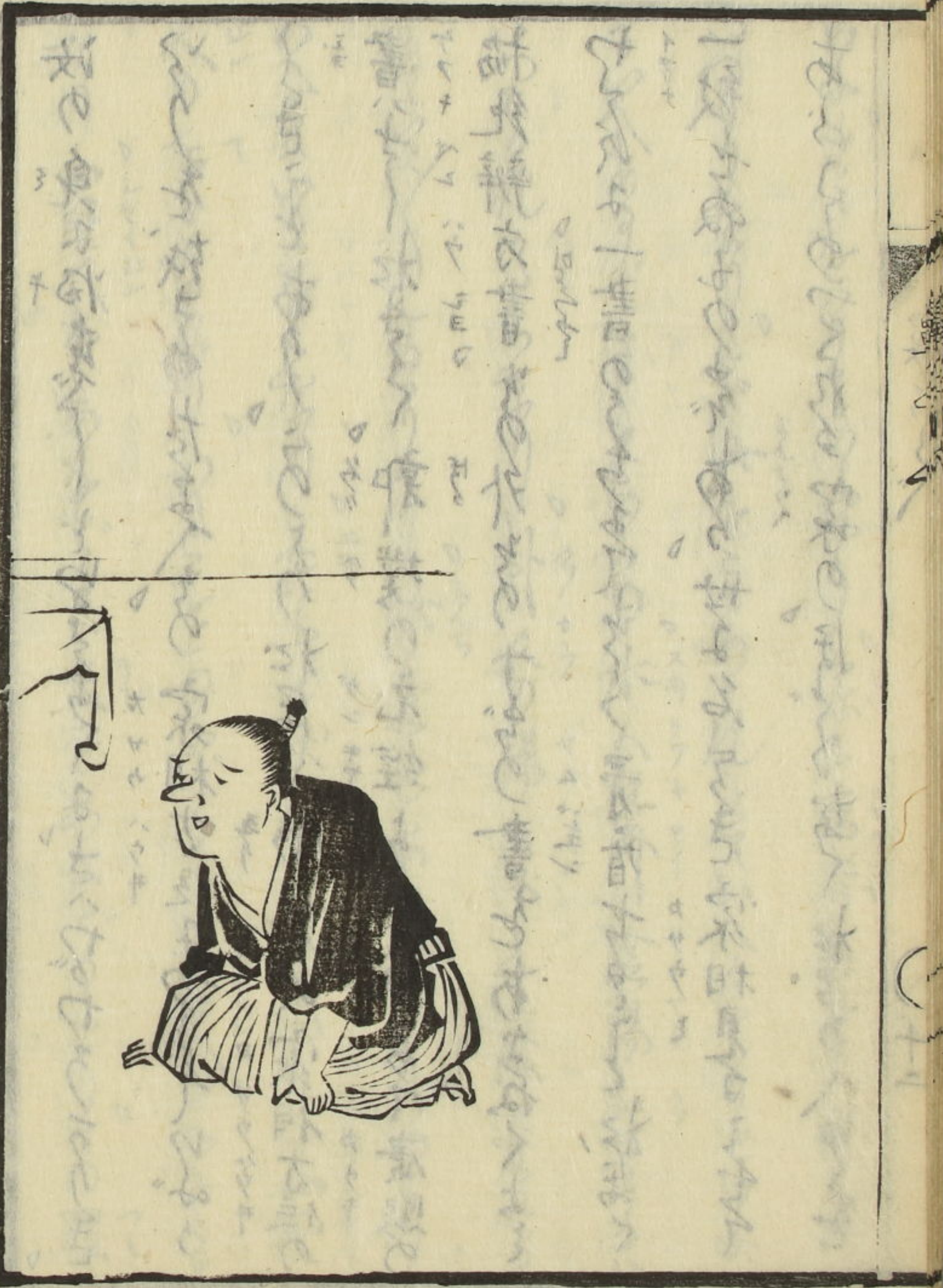
鼻ハのうらぐね

ハ

モシジ コウタイ 文字子相匠 ハクシ たるハ俗儀の^レことナリ、ジダウ 儒道ハ治國平
チシカ 天下ノ教あり^レ、シニシ 真儒ハ天下ノ政事^レを^レりて萬民
チ を救ふ^レとを本意とス、ニホシ 日本ハ小國^レと^レ文盲^レなれば、
タイサイ わが^レとき大才の^レあ^レか^レ貧困^レを^レありて^レあれ^レ上^レあり
チウダ ぞ^レ用ひ^レま^レら^レば、チウダ ち^レあれ^レ中^レ義^レを^レふ^レれ^レこ^レん^レり^レハ
サイキウ 我^レ今^レは^レハ宰相^レあり^レて^レある^レべ^レき^レこと^レなり^レと
サイキウ ち^レ宰相^レあり^レて^レある^レこと^レを^レ志^レす^レや^レと
レイガク と^レゆ^レハ^レ異端^レを^レり^レて^レ禮樂^レを^レ極^レし^レ井田^レの^レ法^レを

バシ 行^レハ^レ庠^レ序^レを^レ設^レく^レ萬民^レ子^レ道^レを^レし^レめ^レ君^レを
ゲウシシ して^レ堯^レ舜^レを^レし^レめ^レん^レと^レり^レゆ^レく^レ人^レの^レ壁^レを^レれ^レハ^レ袁^レ子
チ 才^レ風^レ乃^レ詩^レを^レそ^レて^レなり^レと^レなり^レ、チ 手^レハ^レ子^レは^レか^レつ^レと^レな
チ り^レぞ、チ ば^レあ^レる^レこれ^レの^レ書^レ体^レあり^レより^レゆ^レふ^レと^レゆ^レり、
チ ち^レを^レわ^レら^レひ^レく^レ世^レの^レ書^レ家^レども^レわれ^レハ^レ米^レ芾^レを^レく^レま^レは
チ わ^レれ^レ、チ 徵^レ明^レを^レく^レま^レは^レい^レひ^レ人^レも^レか^レは^レ六^レ子^レ昂^レり^レき^レあり^レ、
チ ち^レれ^レ、チ 董^レ其^レ昌^レか^レき^レあり^レな^レど^レり^レゆ^レく^レを^レつ^レて^レな^レれ^レな^レど
チ 鐘^レ繇^レ張^レ芝^レ子^レ肩^レを^レあ^レく^レべ^レん^レと^レハ^レた^レも^レは^レさ^レり^レ中^レ義^レあり^レハ

漢書卷之八



孝居圖

つねにふるりとたり。そのひなとりのゆまの家の家相
 見うゑあやまねるなりとりのひなを汝のそるひへ
 むもさるしとありとていれたるひのへる命分うをま
 むさるがあつこのうと小あらびとらよひをいそむるこ
 のよとねむいひさるる天文のうと問うまは日月のうと
 ありや陰陽の精なりその質はつちあるもので水火
 の凝りなりとらうまさるる日月のうと水火星
 此あまひらよとていれたるひのうとまはるる研究せはと

いよよすうなぐらまぐまの鼻を以てうんこ
 ねへれどつれこの鼻より妻子をやりたひ
 なるものなれどねむいへしそまのいをこらひ
 ゆくこのうらハ家相方位はまよめまのねまこのうら
 よりまよひすのまのま又ねまくなりゆく
 心をなほまを家の方へたむいへるをたう
 ちありゆる四五へうちつとひおのく
 くるるまうあり歌り會あてありらると果

てあるさきまなり。あるまじくぬを告ぐら
 いける鼻のつづつとさきまのりよつとゆ。
 ひとりがりやうらふらう會主もおのれひとり上まる
 ころなれどてまをさきまの人もさきま假字もつね
 ひとりさきまのさきまなり。かきま
 詞の玉の緒いとのさきまのさきまなり。かきま
 わらぬまあるん。まきま本居翁たけふのさきま
 へまへるさきまよりけり。まきまもさきまもさきま

なるをなまきへまをさきまのさきまをさきま
 するさきまのさきまなり。まの世ガクシヤのさきまもさきま
 され故翁をさきまのさきまなり。本居の大家なる
 ことさきまのさきまなり。さきまのさきまのさきま
 たりまのさきまのさきまなり。さきまのさきまのさきま
 ありまのさきまのさきまなり。さきまのさきまのさきま
 玉のちまのさきまのさきまなり。さきまのさきまのさきま
 本居の近体古体をわけり。頓阿法作の草庵集

そのありし耳をすくよと眼をりやあるなりはひりま
ともしんかきあし。今をあれ後の世まはがりる短
冊をちまのうらなふかある世あらんされどこれまでを
わがめちしむちうごし。あまのひしむとちあや
まゆくこれの又あるいふりりね。
ウきつうらうのいつとわもゆくたぐれのすを
あまらあらま。まのーノ天物^{ラレグ}ねまらうまある
天物^スもにねまらうらるるらね本の葉二八粒

子ありはり、うまやーま真の^{オミ}大天物^{タイテシク}子ありま
うらうらにねまひはゆま金毘羅^{コンペラ}の神をまらる
まのあり天物のねまをねまく、うけあれた
まよりまやーまままの太天物子ありあま
へまひなまぎつ、まの夜まま入まらありあま
うままらうめりとねまほまなまな張^{トク}をまげて
こちらであまを足れ、繪^エまらねる大天物^{タイテシク}のま
ちまねまらまらちまらこのまままねまら



土
九

をり以てさうせんとおぼしむるを子居どもあぐせの事と
 ちりありぬ釈迦の末ののまひびるをまけハ天上天下
 唯我獨尊とのさふなり。孔子ハ天徳をそれ子生
 せりとのさふなり。天狗をまきく如來ハ
 唯我獨尊とて人もなき天狗なきこれをおさる天狗
 ハあつとまきをるも様田彦の神の判しつるよ
 をまけハおぼしむる子ありゆる佛家ハ方便の
 事ありおぼしむるをせらる唯我獨尊も後世の

佛者乃附鼻をあるとのさひつ如來ののこを
 ちりくまへを微笑しつるおぼしむる様田彦の神
 みの微笑しつるおぼしむるあり。枯花微笑の即性
 成仙も我執をある悟なる子。これより又これ
 をさしむるをいふ我執をたし。天狗なる僧俗
 におぼしむる日本ハ日蓮といふ天狗のぞり以てるや
 釈迦ハ月支圖ハ法華經の行者なり。これハ日本國
 ハ法華經の行者あり。されば釈迦と我とをくら

釋迦の事

廿一

され、日月のひかりほども其徳トクはつがひめありといひ
ニチノヒ たり、秋也、月支國の人もあはれ、其の論ロンはすくたまき、
ニチレン 日蓮の鼻あはれと、子ころきやうなれ、唯我獨尊ニキガドクソン
フミダキ の附鼻ニ子あはれへる、二のニ辨ニあはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 だめ、あはれ、あはれ、あはれ、孔子の鼻ニ子あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
ガンダイ 高くぬ鼻ニのよ、これ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 顔回ニが、これを仰ニぐ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
マウカ のうとを、や、い、ひ、か、ん、謝上ニ、祭ニり、い、る、ご、と、い、五軒ニが

天テのあはれ、天下を平治ニせん、いとをほりせ、あはれ、天下ニを
ハイデ 平治ニせん、いとをほりせ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 此れ誰ニと、い、る、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、
ニシトク 天徳ニを、わ、か、ま、ま、生ニせ、り、と、い、る、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、
マシコウ せる、真情ニな、れ、ば、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、
 ゆる、せ、る、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、
 ある、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、
ニシトク この道ニの、い、り、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、あ、は、れ、
ニシトク 四書五經ニの、素、讀ニを、終ニり

東夷子てとりナマラをとりぬ日本ハ何ものをてねし
トウイ ニホニ チヌ
 おの言奉せぬ國のさうあるべし 徳田彦の神判し
ニホニ ニホニ ニホニ
 てのさうくひと日本よりさうく日本のためさきをいぬ
ニホニ ニホニ ニホニ
 べし日本 萬の國ハ君國なり 今もあれ後世ハ
ニホニ ニホニ ニホニ
 萬國の王どのさな日本を君國とて入
ニホニ ニホニ ニホニ
 萬國ハ天皇とあゆむ貢をいれさうくく慎みぬ
ニホニ ニホニ ニホニ
 さ國はなんあるさのまざりのあられさゆふ西洋の
ニホニ ニホニ ニホニ
 戎ら萬國ハ中よりよき國ハ國を構へて帝
ニホニ ニホニ ニホニ

の國とらゆなり 世界ハ統國をさるもさるまざりしあ
ニホニ ニホニ ニホニ
 出や 日本ハ人を傷者佛者ハたさうりされ唐土天は二
ニホニ ニホニ ニホニ
 を入なき國とたれひさうく小國あり 東夷なりし
ニホニ ニホニ ニホニ
 ひいあれ 西洋ハさうくくさむ國ハなんある萬と
ニホニ ニホニ ニホニ
 いさうり多る國の中よりわらな六よりいさうの中
ニホニ ニホニ ニホニ
 さいりあるものさるる國あるをさうくくたれぬ
ニホニ ニホニ ニホニ
 べし唐土ハ人を傷者佛者ハたさうりされ唐土天は二
ニホニ ニホニ ニホニ
 さいりあるものさるる國あるをさうくくたれぬ
ニホニ ニホニ ニホニ
 べし唐土ハ人を傷者佛者ハたさうりされ唐土天は二
ニホニ ニホニ ニホニ
 さいりあるものさるる國あるをさうくくたれぬ
ニホニ ニホニ ニホニ

なるより先代セニダイの後のちを六國コクヘン賓ギとありてわづらとあるなり。
 此の國賓コクヘンなる人を罪つみありても議ギをくわゆるとせられを
 議賓ギヒンとりめあり日本ニッポンをその八議ハチギをあるに六議ロクギをよそ
 て議賓ギヒンをちゆりめざるまじらざるありて天地テウチ
 のちの國コク之常トコ三神サンシとあり神靈シレイ人ヒトありて
 萬國マンコク乃生位ナリウイをよめたるは日本ニッポンを三十度サンジツドより四十
 度ドのあひびよたまはるなり。神書要領シニョウヤウリョウ 神代卷シニョウマキ 枝異傳エヒツデン
ニッポンの千度センジツドのあひびよ寒暖サムイナヒともなほどよくよらるづのあり

ありとこのほりよらるるごとくありてむべきとせらるるを
 外國コクゴ人ヒトのうらむむとせらるるなる造物主ツクリモノノミ日本ニッポンつりぬる
 ちを考カウるに地チを并國ナリクニへいぶらぬとせらるるに似ニあまきとせ
 海ウミをめぐらしていろくせとせらるるよとせらるるなり。
 水ミヅとおとをこのあくよとせらるるめくまじりを四國シコク九中クチュウ東
 とよわらふ浦ウラたまた漆シをお馬ウマくして船フネめりよひを
 よくあさしめ金銀銅鉄キンギンドウテツをお馬ウマくしてめく人を教シく
 武ブくお馬ウマくして米コメのあがらるるまじと


一と云ふの... 國はなんある... 唐土の... をまげを
 聖賢首出乃邦と馬と有り... 舟の中此蛙大海を
 売... 舟をあらぬ... をあり
 乃の首出とりぬハ易乃繫辭よりくる神農氏の稼穡
 交易をありぬ 黄帝堯舜氏の舟楫 宮室をつり
 乃... 日本の上... こと
 乃... 稼穡交易舟楫宮室の類

乃... 西洋諸國... 聖賢
 乃... 唐土... 日本... 癖として
 乃... 舟... 唐土人乃自高
 乃... 上... 道... あり
 乃... 教...

枉事あがしあり唐土カカシ齊セイの王オウ嫡チクが忠良チュウジリヤン二君子ニクニシ仕へも烈女レイニョ
 二丈ニシヤウを更スせと入るイるル一志イツシを此ココも彼カもいひなく
 どのやナニやナニとありリ、傍道ニヤウダウのやナニりリ日本ニッポンの上ウヘに
 くれケはハあアりリてテめメでデまマさサこコとトありリ古語コゴは陸行リクギョウハ草クサ
 生ナマ刷シ、海行カイギョウを水ミヅ付ツ死シ、大君オホキミの故コトを死シなハり、長閑ナガヒラみハ
 あアじジとトいイひヒらラいイ、このコノさサかカハ安閑アンカンとトて世セをセねネくク心ココロ子コ
 あアらラじジ、大君オホキミの為タメに命イノチをシなハすスこコとトいイひヒらラいイとトなりリ、
 忠良チュウジリヤンのノ情ナヒはあアらラじジやヤ、これコレはあアりリてテおオ女メハハ悪人アクニン

にもありタウフ、湯ユにニ其君オノキミをシ殺コロしシてテ代ヨをシ更スめスるル、不フ明メイ
 にもありコウキウ、孔丘コウキウが司職シシヨク吏リよりヨリとトりリあアらラじジ、大オホ夫フとトまマで
 ちねチネるル魯ロの國クニをシ去サりリ、他國オノクニの君キミにニ仕シへルとトいイひヒらラいイとトなりリ、
 あアらラじジとトいイひヒらラいイとトなりリ、聖セイ人ジンとトいイひヒらラいイとトなりリ、おオ女メハハあアらラじジとトいイひヒらラいイとトなりリ、
 大オホ巳ミ貴命キノミの後ノチにニ返世理ヘンセリ姫命ヒメノミの歌ウタをシ、吾オレハハ女メとトいイひヒらラいイとトなりリ、
 あアれレをシ置オキてテ男オトコハハあアらラじジ、卿キョウをシ置オキてテ夫ウツスハハあアらラじジとトいイひヒらラいイとトなりリ、
 ありレ、烈女レイニョハハあアらラじジとトいイひヒらラいイとトなりリ、



政信寫


又属国ジヨクありぬ國クニよりりゆべきことばまきかあり。さらば
 日本ニッポンの儒者スサの唐カウをきいて中国チウグン中美チウメイとりのあるははりの
 ありウツレ枉カウらりや。朝廷テイテイへ對タテマツしてむねあること
 もあはばやあるん長崎ナガサキへつらるる唐カウ人ヒトまはるる
 中ナカ兼ケンといふぬあり中ナカの以イてんニハ毎禮マイレイなりと
 りくひ徳トクをへ。彼國カノクニの金術キンジュツ兵制ヘイセイの所録ショロクなる日本ニッポン
 風土記フツキは日本の歌謡カウをのせく。幕中ボクチュウ兼ケンといふことを
 偽作ゴウサク「コヒノナカハナ」といへるハわらへぐあむべし。

唐カウ主人シヤウジンをどまりく日本ニッポンを属国ジヨクみせんとおもはるるあれバ
 文事ブンジもあづる人ヒトをカウ用ヨウえきことなり。ちのまら
 太宰タイサイ純ジュンり重刻チュウカクせる古文コブン孝經カウキヤウもあはるるなり。知不足齋チフツクサイ
 叢書ソウショ子シのりるを日本ニッポンの儒学者ニョウガクシャハいりまきことなり。以イて
 ちやせとまらとまらなぐへまらとあり。その序ジヨの中ナカに
 夫古書フコショ之シ亡シ中夏チュウカ而存ニ于我日本ニ者シヤといふやとあれがなり。の
 文属国ブンジヨク乃ハ入ニりゆらるるはつひなり。日本の皇祖神靈スミマコノカミ
 子シ對タテマツして太宰タイサイ純ジュンハいりるの委奴縣主ウヅノケンシ是利義シレイギははりと

参考熱田大神縁起 一冊

尾張國熱田神宮三種神事の其一草薙室劔と納奉
 正殿中延喜式神名帳小名神大社と神其餘三神と合
 まつりて延喜式神名帳小名神大社と神其餘三神と合
 功と立と十古不易の貴き神官たり柳武尊の天下小
 色そり世と治る人うやまひほつりるハ下ハ世小
 神小ましと抑此縁起ハ貞觀十六年神宮の別當見張
 連清稻古記古老の語傳一とて稿有しと尾張守藤原
 村相漆削ありて落成し一通と公家以奉り一通と社家
 小贈る一と國衛小留めらるる小寛平二年十月十
 五日贈る一と國衛小留めらるる小寛平二年十月十
 古傳純粹の縁起小盛るる小寛平二年十月十
 信諸本と以て其子訓遊と共熱田の醫師伊藤主計
 民諸本と以て其子訓遊と共熱田の醫師伊藤主計
 上木と猶好たる所あるハ武尊西征の事と記さし
 て上木と猶好たる所あるハ武尊西征の事と記さし

明治廿七年九月十二日買得古

0.10

天保五年一なるまゝ末ぬるといふほどといふ人もなく
 といふくといふなくといふまゝといふてつくたああり
 といふれまうけいといふまゝといふてつくたああり
 の入はあまのまゝといふまゝといふてつくたああり
 後田彦と金毘羅の神との異らるべハ後のまゝといふまゝ
 ておれいといふまゝといふまゝといふてつくたああり

古事記日本紀
神階の次弟攝社
一冊と見ると熱田大神の靈蹟
六年三月作者自序あり

直毘靈

一冊

此篇ハ道といふ夏の論
天照大神の御生ませる大御國
万国の御道としらみ小あらぬ
古の御手振とやでさき神道と名つけら
かぎりの天皇の御命とまじり
の外なくちひて道とまじり
のたのしみあり

み心と後ひ清めて
とよく其とふるを
へたるも御津日
られけむのまの議
十月九日小かき
と古事記傳一の
い戦行の冊の巻
の古事記傳一の

萬我能比禮

一冊

古來神道と稱者
古人未發の慰解
驚きいぶか
古來神道と稱者
古人未發の慰解
驚きいぶか

こ小信濃國上田の小林文康彼書の誣説の多きとこの
すしはらば初学に輩の惑ともなげんやて此書とあ
らてしその碑言とも漢学の道の教びのありしきとも
心けりり小照しみよして磨なす真澄の鏡照し見
漢の心の闇ハ明らんやハ哥とよみやが了書名小
とてよるなり○直昆靈葛花其餘の書小故翁未い
もかりし説とも書出古学者小益多き書心○本居先生
孫有郷主序尾張儒官鈴木翁序天保五年二月伊勢山本
吉正上木の跋あり

花能志賀良美

一冊

是十級長戸風と論斥ふたれ書して下総國勝鹿小松川
あふりる菅原定理の著述る麻須羨能鏡し並見
小畢竟ハ同じものゐら其餘裁悉異たり彼小ありき
此に精く更小珍しきいひもあ初学小心得
易きと散とふより序わく全文約小心得ともさとし彼書小
とかしみたり序わく全文約小心得ともさとし彼書小

小をと錯て假字づうひとたけしとよまとるり
べて取遊き詞をてけりたて真澄鏡とよまんとるり
櫻根大人と識せらみをつきてさる悪風の為花をちら
さじしてとがらみたるよしの名なるべし○一名と妙
ふて出してと戯よべとふし級長戸の風氣とけけ
らえめんとてとみづうらいつり○天保九年四月自
序あり

詞のひ合鏡

折本 二枚

岩雲花香柳澤信郷とやと小著を○活語の定格変格に
先達の考漏されると補ひ活用の例と詞数いと多く
出し心得易のるべく因小あらハし細小訓さやしたり
て小を以細鏡詞ハ語衛詞遺友鏡等小照合せをしてハ叶
ぬ指南書とて語学家有益のたのなり

消息案文

一冊

大にハ萍居黒澤翁著シ○手紙の夏と昔ハ消息とい
 へて哥らひ雅言もてかきけらんとそむ時いまだまき
 小ハ哥ハよくよめども文章ハたとも思ひの外えか
 ぬものなるをまして消息文ハおとばづぐひの専
 けりて一とほたせを知らばとれを手ひくぐの教
 ろんやて消息文例消息文椽とれを既小世に流布せれど
 猶雅言と俗語小引當たるくどりの既小世に流布せれど
 の輩不自由なまバ此書よと専雅言俗語の相當ととき
 小児女子小もかり易くかき記したる且小冊の横
 にて懐中する小便利なるを先小徳論ありて
 文と本草の枝小つくる夏。哥と書入る夏。月日と
 かく夏。文の封じやう。とむの専車の辨。文言葉
 雅語の釋。早引。衣のいろあひ。

調度の名の釋をくりに惣論の拾遺りり
 天保四年三月門人松本安樹序同竹之下直蔭跋りり

繪入伊勢物語

合本 一冊

伊勢物語の素本世小類多しといへども魯魚の誤とも
 証さて上本せるものみねるを是も長祿二年の奥書
 あり寛文二年の版と得て文字の誤脱と類本小て校合
 し新刺しつむを素本中の最上といふべし

はやく草

新板繪入 二冊

徒然草二百四十六段諸本小脱落りると此本も或名家
 の本もて上本しさをみ疑く傍れ假字も悉つけた
 一かよて少人によみ疑く傍れ假字も悉つけた
 一草素本よは出れ上とこをものあるべやくば

後撰集新抄

十五冊

後撰集廿卷ハ天曆五年坂上望城源順紀時文大中臣能
 宣清原元輔等に譲りて昭陽舎小徳藏人の少將た
 させり次ハ和歌所の別當とて政公徳藏人の少將た
 己も時ハ和歌ハ八雲御抄拾芥抄にも千四百廿首今
 るせり○歌員ハ八雲御抄拾芥抄にも千四百廿首今
 本小千四百廿六首但重復六首あり○本居大平翁此
 新抄の序小いこく後撰集ハ古のみさうりし代上村
 天皇の歌どもに集ふ道小くて此集と論ふ古
 今集ハ大りた哥に辱まじらむ撰ての一例は万
 ひたると此集と其表裏小て四季意雜等合たは
 思ひの外なるが致に入らむ都ていや見
 け撰に小て當時家々の集りまも何小見
 きくに従ひ彩集て其の集りまも何小見
 つめたるもの見ゆるが物学びの方小とてハ
 もいへるしき軽にらん中書こ色が註釋してハ為家

の大納言抄と季吟法師の八代集の抄さ
 開梨の聊物ハ書加つたるのみ小ていづも
 やし多る物ハ書加つたるのみ小ていづも
 石君三河代國吉田殿小はへて萬は人の門人
 其君り畏き倭皇と内々ながらりりてこも
 解とみひものをれと云ふ○此集を學者の要
 小いすれたれ緒る歌らむ詞書を考むれば
 なくすべし由緒る歌らむ詞書を考むれば
 たき更の問し精る石上先々く考むれば
 ひ師小實問し精る石上先々く考むれば
 達の認當時人の新説とてあはくは深く注
 考の細別注釋ハ古鏡中作者の承徳官御等
 委曲卷末上舉り集中作者の承徳官御等
 別記一冊春雜以下并追考嗣刻九ノ十四意

